

### 23/3/3 名古屋市議会本会議（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

議長：江上博之くん。

江上博之議員（共産）：通告に従い、順次質問いたします。

第2号は、名古屋城天守閣木造復元の財源を含めた収支計画の見直しについてです。

戦後復興の象徴である現名古屋城天守閣を解体して、木造天守再建を目指す名古屋城は木造天守整備基本計画を、名古屋市は今年度中、今年度中に策定し、文化庁に提出しようとしております。

私は、市民合意のない天守木造復元でなく、天守は、耐震改修と博物館機能の充実東北隅櫓など、焼失した施設を復元する名古屋城全体の整備計画とその実現を求めてまいりました。河村市長は木造天守を強引に建設しようとしております。

しかし、基本計画そのものについては、穴蔵石垣の保存方針や木造天守と、穴蔵石垣との接点にあたる基礎構造のあり方など、まだまだ問題が残されたままです。

問題の解決もないままの基本計画を文化庁に提出することはもちろん認められません。さらに、基本計画は、木造天守再建を文化庁が文化財保護法に基づいて、特別史跡の現状変更許可を行うかどうかを求めるものであって、名古屋市の施設として再建するには、財源を含めた収支計画も含めた市の計画が必要です。

昨年9月議会でも財源について質問いたしましたが、改めて質問いたします。

木造復元の財源について、市は昨年9月議会でも、天守閣木造復元にかかる財源は、入場料収入で賄っていくとの方針と、収支計画の変更はないと答弁されています。収支計画では、建設費に500億円以上。維持管理費含めて50年間で1000億円の費用が必要です。年間で20億円を充てなければなりません。建設費に充てるのは、入場料収入の75%と計画しています。入場料は毎年25億円以上必要という計算になります。

入場者数は、入場料収入を市民450円、市外観光客1000円と想定して、360万人が50年間続くとしております。

では実態はどうか、コロナ前の2018年度で、入場料収入約8億5000万。220万人の入場者でした。

木造復元の収支計画は、あまりに過大な入場者数を前提にした計画ではありませんか。

その上に2020年からのコロナ禍です。距離を取って観覧するのは当たり前です。

外国からの交流人口も大きく変化するでしょう。国宝にまでしたいという施設ですから、ゆったり観覧でき、丁寧な維持管理が必要です。

ますます入場料でまかなえず、税金投入はさらに必至ではないでしょうか。

毎年度10億円を優に超える税金投入もあり得るのではないのでしょうか。

そこで観光文化交流局長に質問します。コロナ禍を受けて、入場者数の見直し、収支計画の見直しが必要と考えていないのでしょうか。回答を求めます。

その上で、天守木造復元を実施しようというのであれば、文化庁への基本計画の現状変更許可申請とともに、市民に財源を含む収支計画について示す必要があります。いつまでに収支計画を示されるのでしょうか。観光文化交流局長に質問します。

折戸観光文化交流局長：観光文化交流局に対しまして、名古屋城天守閣木造復元の財源を含めた収支計画の見直しについてお尋ねをいただきました。

名古屋城は、本市を代表する観光施設であり、入場者数は、平成30年度および令和元年度においては200万人を超えておりましたが、コロナ禍による観光需要低迷の影響を受け、令和2年度には約52万人。令和3年度には約69万人と大きく減少いたしました。

しかしながら、令和4年度につきましては、渡航制限の大幅な緩和や、全国旅行支援、車中泊といった観光需要喚起策により、観光需要は回復傾向であり、名古屋城におきましても、秋の夜間公開による日常とは異なる魅力創出を試みるなど、新たな取り組みを実施することで、令和5年1月末には入場者数が100万人を超えるまでに回復してまいりました。

議員ご指摘の入場者数は、名古屋城内にご入場いただく人数でございますので、今後につきましても、木造研修だけでなく、二の丸庭園等、場内の整備とプロモーションを両輪とし、展開するなど、特別史跡名古屋城跡の魅力を積極的に発信し、集客を図ることで、税金ではなく、入場料収入によって、名古屋城天守閣事業における財源を賄っていく方針でございます。

その上で、新たな収支計画につきましては、来年度以降、文化庁において復元検討委員会が開始され、新たな完成期限を定めることができる段階となりましたら、その完成期限に基づく収支計画を作成し、市民の皆様にお示ししてまいります。以上でございます。

議長：江上博之くん。

江上博之議員（共産）：名古屋城天守閣木造復元の財源を含めた問題です。

木造復元は入場料で賄っていき、入場者数の見直しについて見直しをすることは、回答されませんでした。入場者は天守だけでなく、二の丸庭園など、場内の整備等も進める中で増やしていくとも言われました。

これ以外にも、名古屋城に係る整備予算が提案されております新年度予算、そのような整備には莫大な費用が必要ですが、天守木造化が、私の計算で言えば、毎年10億円以上税金投入となりましたら、全体の整備が進められるのでしょうか。

全体の整備のためにも、天守木造化は中止すべきでありますそこで市長に質問します。

今提案されている名古屋城全体の整備を行うというのであれば、天守木造化を進めるべきではありません。

天守木造復元は中止するのが、名古屋城全体整備を進める道ではありませんか、回答を求めます。

河村たかし市長：こうなってくるとよいっぺん共産党の意見なのか江上さんの意見なのか、ちょっと答えてほしいんだけどね。

1人の名古屋の人間としてですね、国宝1号であった後が、図面も完璧に残ってる。

こないだ、何かの機会である学者の方が言ってたけども、図面、もうすごいなら写真もすごいでしょこれ。そういうものを、がある場合ですね。

それをもう1回戦争で不幸にして燃えたんだけど、木の文化はしょうがないよ燃えちゃうもんで、それをもう1回元の状況に戻して、今度、国宝にして、僕は50年が100年いってますけど200年ぐらいで国宝にした方がいいんじゃないかと思えますけど。

もう1回国宝にしてですね、1000年は大事にしていくと、法隆寺が1300年ですから、そういう任務があると思わんかね江上さん、あんた名古屋市民として、どうですか。

江上博之議員（共産）：質問を受ける立場ではありません。申し上げたいのは、私は、先人が準備した資料というのは大変貴重なものだと思います。

全国でも名古屋城しかない、このことは言えると思っております。

しかしだからといって木造天守復元の道ではない、これは注意すべきだということを申し上げておきます。